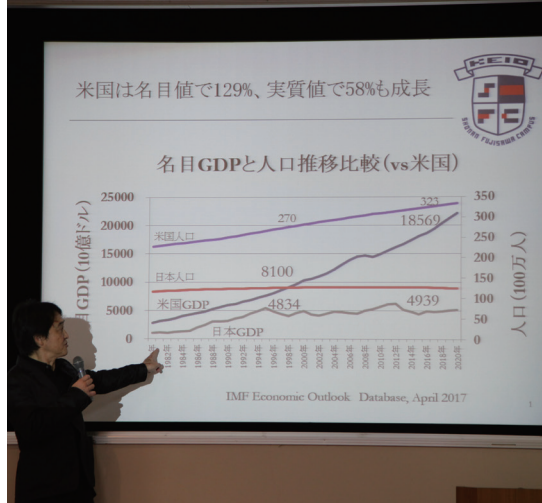


駒木祭講演

100人のエリートより 1人のオタクが活躍する時代



夏野 剛さん

慶應義塾大学
政策・メディア研究科
特別招聘教授

江戸川大学駒木祭2日目、11月3日にメディアコミュニケーション学部情報文化学科主催で夏野剛さんが『ICT革命による日本再生』について講演した。夏野さんは、NTTドコモのiモード立ち上げに携わり、2001年には『ビジネスウィーク』誌の「世界のビジネスリーダー25人」に選ばれた。現在では、ドワンゴ、セガサミーHDなどの社外取締役を務めている。夏野さんの熱く、個性的な講演をライブ感覚でお届けしよう。(取材・文・撮影: 日高那侑)

ICT革命に 取り残された日本

今から20年前は携帯もPCも、インターネットもなかったんです。そこからICT革命がおこりテクノロジーが進化したんです。WEBサービスとインターネットの検索とかそういうことで、仕事効率が高まりアウトプットが増える。より便利な道具を使って、より短い時間で同じ成果を出しましょう、あるいは同じ時間だったらアウトプットを増やしましょうという、これが生産性を上げるということなんです。

アメリカは、この20年間で129%も成長している。ちなみにアメリカは人口が20%増えていますが、この人口ボーナス分を除いても100%成長しています。国民ひとりあたりのアウトプットが倍になっていると言うことですね。でもアメリカという国は残業をしません。みんなさっさと帰って労働時間が増えているわけではないんです。こんなに差が付いたのはおかしいと思いませんか？

今や日本のGDP成長率はOECD加盟国中32位。先進7か国中6位。でもみなさんが生まれるちょっと前くらいまでは、最上位だったんです。20年間で日本だけが取り残されたんですよね。そして日本のこれからの20年間は人口減少の過程に入ります。人口が減少するとですね、普通にやっていると売上げは下がるので給料が下がるという時代に入ります。だから今までのすべての常識を棄てなければならぬんです。

ところが日本だけが、20年前と役職体系が変わっていないんです。つまり年功序列とか終身雇用とか新卒一括採用とか、そんなことをやっているのは先進国で日本だけです。さらに同じ釜の飯30年とかやっているんですね、効率が良くなるわけがありません。それはなぜか、同じ釜の飯30年の中の理屈だけで考えるからです。でも、ライバルは釜の飯の外に居るんです。

組織の力より 個人の「想像と創造」

効率の革命以外にも検索の革命が起きました。ネット検索ができるようになり、どの会社に勤務しているか、どの大学を出たのかに関係なくプロになれる時代になりましたよってことを覚えておいてください。つぎはソーシャル革命。ソーシャルは才能の発見装置なんです。この人こんなことまで知っているんだってTwitterで流れたり、インスタでの子はこんなにセンスがいいんだってわかる。個人の力が発見されやすい環境をSNSは作っているんです。

これにより専門家の定義が変わっていききました。仕事の場でも、100人のエリートよりも1人のオタクが勝ちやうな時代になったんです。なので皆さんには、やっても苦にならないことを見つけてもらいたい。そしてそれをやるべくずっと持っていてください。それが仕事になった時に皆さんは絶対に成功します。

私は一億総オタクになればいいと思います。日本人は多様性社会じゃないって言われますが、じつは一人ひとりは趣味も違うしやることも感じることも違うんです。人種の差よりも個体差の方が大きいんです。そして二つの「そうぞう」、イマジネーションの想像とクリエイションの創造。これらは、AIにはできないことです。AIは過去のデータを元にデータを出してやるので新しいことはまったく言ってきません。これからの日本を変えるために想像力創造しながら希望を持って挑戦していくんです。